

# 探検！郵便局&冬の絵手紙・年賀状教室

## 盛会御礼新聞 大人気はすくま再登場

平成29年12月10日

TOSS 高知

### 大盛況！冬の絵手紙教室

今年で3回目となる冬の絵手紙・年賀状教室。参加児童37名。保護者22名。計59名の大盛況。

開会挨拶は高知中央郵便局の山田局長。

「今日はしっかり学んで、ぜひおじいちゃん・おばあちゃんに年賀状を出してください。また、郵便局の探検もあります。地上5階・地下2階の建物の探検も楽しんでください。」



郵便局の施設の大きさに驚いた子どもたちからは「えー!!!」という叫び声が聞こえた。

### 年賀状の秘密

世界一受けたい郵便の授業。今回のテーマは「年賀状」。この授業をするために松井総務部長をお願いをしてデザインを指定

した2枚の年賀状を準備していただいた。毎年、郵便局から提供していただいている本物の年賀状は参加保護者から大変好評である。



「どっちの年賀状をもらったら嬉しい？」当然、人気はディスプレイ年賀状。しかし、今年のインクジェットデザインは秀逸。その秘密をさぐる授業であった。

### 筆ペンで年賀状づくり

年賀状を書くときのマナーの一つに「太い字を使う」がある。めでたい日にボールペンなどの細字は相応しくないと考えだ。【太い字】を書くときに最適なのは筆である。しかし、小学生にはハードルが高い。そこで、筆ペンを使ったイラスト、変形文字を使った年賀状に挑戦をした。まずは、練習用ハガキに○を描く。これが犬の顔の輪郭だ。驚くほど簡単な図や線だけでかわいい犬の絵ができた。つぎに、彩色と装飾。彩色は筆や綿

棒でイラストにアクセントをつける程度。装飾は和柄の折り紙やマスキングテープを思い思いに貼るという作業であった。



参加した子どもたちは思いっきりがよい。いい意味で迷いが無い。どんどんと筆を走らせる。そして、色をつけていく。少々失敗しても、筆ペンで描いているため余計に味わい深い作品が出来る。練習用ハガキが真っ黒になるまで練習をしていた子もいた。



ある保護者のアンケートより。「(双子の息子が)祖父母に年賀状を書こうと話してくれました。今年はそれぞれが出します。」

おじいちゃん、おばあちゃんの元に双子の孫から年賀状が届く。その年賀状を眺めて目を細めるおじいちゃんとおばあちゃんの姿が目につく。おじいちゃん、おばあちゃんからも手描きの年賀状が届く。このように世代を超えて手紙・ハガキ文化が受け継がれていく。

### 探検巨大施設！高知中央郵便局

メイン会場の4階から地下1階まで一気に階段で下りる。そこは巨大な駐輪場。真っ赤な郵便バイクが大量に並んでいた。そこから地上1階に出て、ポストを見学。普段は絶対に見る事ができないポストの中も見せてもらった。参加した保護者も興味津々の様子であった。局員さん「ここまでは一日10回、郵便物の回収にきます。集まった郵便物は高知東郵便局に送られ、そこから全国各地に配達されます。」



局員さんの説明を聞き逃すまいと必死にメモをとる女の子の姿

が印象的であった。閉会挨拶は高知中央郵便局の松井総務部長。高知新聞の記事を配布して語ってくださった。「年賀状の手書きのゆくもり、相手を思いながら書く時間。いろんな意味で良い教育となります。親御さんは子どもさんのためにも、そういう環境を整えてくださればと願います。」

記念品を受け取った子どもたちは嬉しそうであった。



右の写真は最も印象に残ったシーンである。女の子が自分の書いた年賀状を出したいと松井部長のもとにきた。松井部長は腰を屈めて女の子の話をじっくりと聞く。そして、最後に力強く宣言された。

「確かにお預かりしました！」女の子にとって一生忘れられない思い出となるシーンであった。